



もし 戦争が起きたら、皆さんがこの冊子で得た助言や指示が、生き残る機会にとって決定的になるかもしれない。この冊子を重要書類とともに保管すること、いつか、必要となるかもしれない。

もし
戦争が
起きたら

スウェーデン市民へ

スウェーデンは平和を望んでいる。

我々の願いは、大国間の緊張緩和が可能となり、世界平和が維持されることである。しかし、国家間対立がある限り、平和への脅威は残る。それゆえ、わが国は最悪の事態、すなわち戦争が起きた場合に備えて準備しなければならない。

我々は防衛力は、もっぱら我々の自由と独立を守るためのものである。

スウェーデン市民は、国家の独立を守る意志に同意する。我々の自由を脅かす武力攻撃には徹底的に抵抗する。

国家総力戦にはトータルディフェンスが必要となる。そのため、すべての市民は、軍や民間防衛や軍需生産や公共的供給や医療機関や家庭で、トータルディフェンスに全力で参加しなければならない。また、現代戦の危険から身を守る方法を知り、危機的状況でも平和と均衡を維持することがいかに重要であるかを認識している必要がある。

スウェーデン市民には、この冊子の内容を理解すること。そして、皆さんと家族がどのように行動すべきか考えること。

もし戦争が起きたら
ストックホルム宮殿 1961年5月



Sage Erlanson

国家総力戦 トータルディフェンス

2

現代の戦争は総力戦である。侵略者は我々を屈服させようと、あらゆる手段を用いる。陸上から、海を渡って、そして空からの侵攻で、侵略者はわが国の領土を占領しようとする。敵は航空機とミサイルで、わが国の軍事および民間の標的、すなわち軍事拠点や鉄道分岐点や発電所や工場や石油貯蔵施設や都市やコミュニティを攻撃する。敵は商戦を沈め、港を破壊して、重要な物資の輸入を妨害しようとする。敵は、伝染病を広めて、人間や動物に被害を与えたと考えるかもしれない。敵はプロパガンダと噂で、我々の抵抗する意志を弱体化させようとする。平時でも、第5列の活動が、スパイと破壊工作により強化される。

国家総力戦は、トータルディフェンスで対処しなければならない。

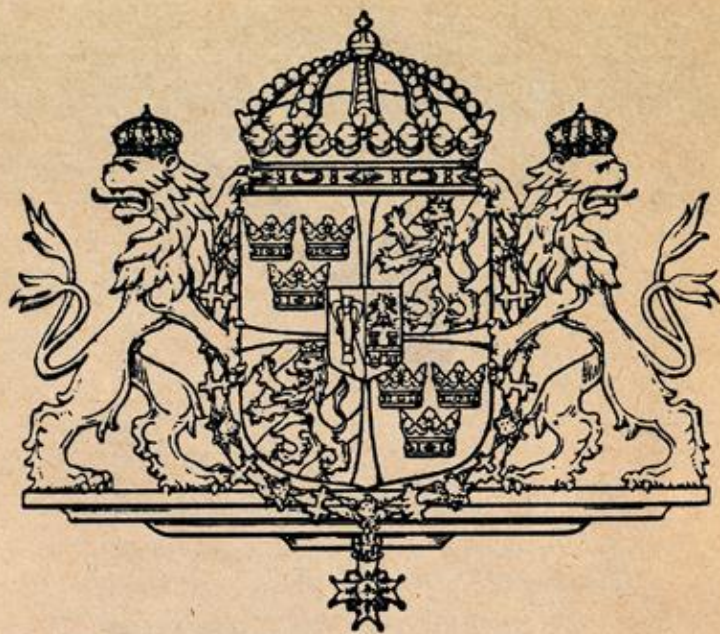
我々は、我々に対する攻撃と圧力から、自らを守らなければならない。それは我々の自由と自立、そして我々の独立国家としての存続に関わる。

スウェーデンは自国を防衛しなければならない。自国を守る力がある。自国を守る意志がある。

3

絶えず、あらゆる状況で抵抗を続けなければならない。それは、皆さんの努力と決意と生存への意志にかかっている。

我々は決してあきらめない。
抵抗を中止するというメッセージはすべて偽りである。



4

国家戦争指導部

スウェーデンの戦時は、憲法に従い平和志向で統治される。これに反する命令は違法である。

合法的政府の法を遵守し、その指示に従うことは皆さんの義務である。国家指導部は戦時にはスウェーデンに留まらない。国王と閣僚と議会と政府機関は首都から、攻撃に強い場所へ移動する。敵のプロパガンダをどう言おうと、この移動は逃避ではない。国防指導を確実にするために予め計画された手段である。ランステイング（地方自治体）も庁舎外へ移動する。



15

緊急警報

警報音30秒、15秒休止、警報音30秒、警報は5分後に終了する。



空襲警報

1分間の短い警報音。



1分間の立ち上がりおよび立ち下がりサイレン



1分間の短い電話音。



警報解除

30秒の長い警報音。



軍事力

民間防衛

経済防衛

国家戦争指導部

心理的防衛

軍事力の役割は、わが国に対する攻撃を退け、攻撃を未然に防ぐことである。

民間防衛の役割は、民間人を守り、攻撃の影響を限定・軽減することである。

経済防衛の役割は、我々の生活を確保することである。

心理的防衛の役割は、抵抗精神を維持・強化することである。

我々は備えなければならない

平時には、わが国の防衛は資源の許す範囲で整備されている。兵士は訓練され、装備はぐんと民間防衛の範囲で調達される。要塞が建設され、シェルターが準備される。公共的供給や医療に不可欠な物資が備蓄される。

我々がこのように備えることで、我々には自らを効果的に防衛できる機会がある。そして、準備を整えることで、我々が戦争に引きずり込まれるのを避ける機会を増やせる。

窮地に陥った時、わが国のトータルディフェンスは戦時体制をとらなければならない。核兵器による攻撃のリスクに対して、大都市からの避難をせざるをえない。避難により、物資生産供給がより困難になり、住宅状況や生活条件が低下する。しかし、それは人命を救うために必要である。そして、時間通りに実行しなければならない。

我々は戦争が事前警告なしに起きる、すなわち奇襲攻撃を想定しなければならない。軍の動員と住民避難を同時に実施しなければならないかもしれない。トータルディフェンスは、そのような状況にも対応できるよう計画されている。



皆さんの持ち場

軍あるいは民間防衛に動員されたら：

配置命令を受けたら、ただちに戦時配置命令に示された場所へ行くこと。

8



招集は緊急警報あるいは、ラジオ放送や郵便や口頭で伝達される。



あらゆる手段で、できるだけ早く配置場所に連絡を取ること。戦争の最初の数時間で最善を尽くす必要があるかもしれない。



配置場所に連絡が付けられない場合は、最寄りの連絡先すなわち、郷土防衛隊長や民間防衛隊長や地元警察に連絡を取ること。

医療や生産や通信あるいはその他の総合防衛で働く場合は：

9



平時に当局および雇用主から受け取った指示と、緊急事態準備で受け取った追加指示に従うこと。

全員に：

戦時には、持ち場で自らの能力を以って、いつも以上に貢献しなければならない。

特に指示を受け取っていない場合は、職場での労働を続けること。

緊急警報

戦争の危険がある場合、緊急事態準備を発令することがある。これは、軍事力と民間防衛、そして政治に活動を継続するすべての政府、公共機関、組織、企業による全防衛力によって準備態勢が強化されることを意味する。

緊急の戦争の危険がある場合、緊急事態準備は緊急警報を通して周知する。緊急警報は、トータルディフェンスが組織化され、最高レベルの備えをとっていることを意味する。緊急警報は、タイフォンやサイレンから30秒の警報音と15秒の休止で、5分間継続する。



3

ただちに避難所を探す準備をする。



4

避難の準備をする。



5

軍あるいは民間防衛の戦時配置命令を受けている場合は、ただちに配置場所へ行くこと。戦時配置命令に従うこと。

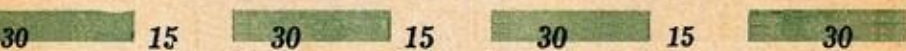


緊急警報発令後の数時間は電話をかけない。当局は電話回線を必要としている。

動員中止を告げるすべてのメッセージは虚偽である。

10

11



緊急警報の場合：



1 ラジオをつける。
重要な指示が伝達される。



2 灯火管制を行う。

抵抗精神

敵は武器だけでなく心理戦でも私たちの意志を打倒しようとする。政治的圧力やラジオ放送やチラシや噂を通じて、軍隊と民間人は開戦前および戦時の両方で、強烈で卑劣なプロパガンダの対象となる。敵は、抵抗してもムダであり、降伏した方がいいと言うだろう。

しかし、忘れてはならない：抵抗を中止するというメッセージはすべて虚偽である。抵抗は絶えず、そしてあらゆる状況でなされなければならない。

敵のプロパガンダは啓発と知識によって、うまく対抗できる。戦時も、迅速かつ正しいニュースが新聞とラジオとテレビで報道される。敵が利用できないニュースは報道されなければならない。言論と権力の批判の自由は戦時も維持される。

報道機関とスウェーデンラジオは、戦争中の活動を確実にするための措置を講じた。しかし、ラジオやテレビの放送だけでなく、新聞配達も時々妨害され、中断される可能性があることを我々は予期しなければならない。

1

いつも読んでいて、信頼できる新聞や雑誌を読むこと。ニセのスウェーデンの新聞に注意すること。



2

ビラに注意すること。虚偽の指示が書かれているかもしれない。

3

いつも聞いている周波数のスウェーデンのラジオを聴くこと。



4

別の周波数のスウェーデンのラジオも聴いて、確認すること。

5

重要なメッセージは、ラジオのマークのつけられた周波数でも伝達される。



6

しかし、ニセのラジオ放送に注意すること。たとえ有名なスウェーデンのラジオキャスターであっても、模倣されているかもしれない。注意すること。

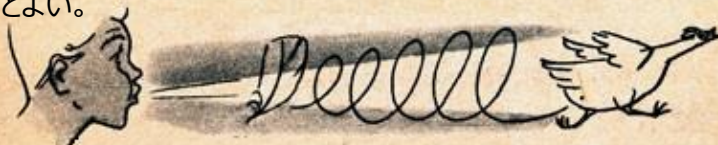


7

停電するかもしれない。トランジスタなどの電池ラジオを持っているとよい。

8

噂を信じない。噂を広めない。



警戒



敵平時でも、スパイは我々の防衛や工業や発電所や通信を探ろうとしている。第二次世界大戦後、わが国では大量のスパイ行為の事例が明らかにされている。スパイや破壊工作のリスクは、より重要な場所で増加するだろう。

防衛の秘密を暴露され、重要な施設が破壊されると、人的損害や物的損害が大きくなり、防衛力が危険にさらされる可能性がある。

防衛および公共供給に損害を与える情報を提要した者には厳罰が待っている。スパイ行為は反逆罪であり、戦時では死刑となる可能性がある。

1

秘密にすべきだとわかっていることや、そうすべきだと思われることを話してはならない。

2

不安の中では警戒を強めること。話過ぎるよりは、話さないほうがいい。

3

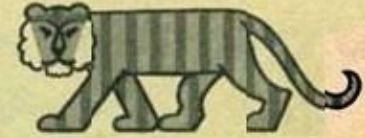
権限のない人と、防衛や自分の仕事について話をしないこと。

4

意図せずに提供された情報であっても大きな損害を引き起こす可能性があることに留意すること。敵はそれで探している正確な情報を得てしまう。

5

スパイや破壊工作の疑いがあるなら、できるだけ早く警察に通報するのが義務である。



スウェーデンタイガー

14

明らかにされた艦隊の大スパイ

スパイ行為はカールスルーナ軍港の状況とその準備状況、ストックホルムの海軍とストックホルム群島に関する軍事上の秘密に関するものである。5つの劇的な尋問で...

60歳の技師をスパイ容疑で逮捕

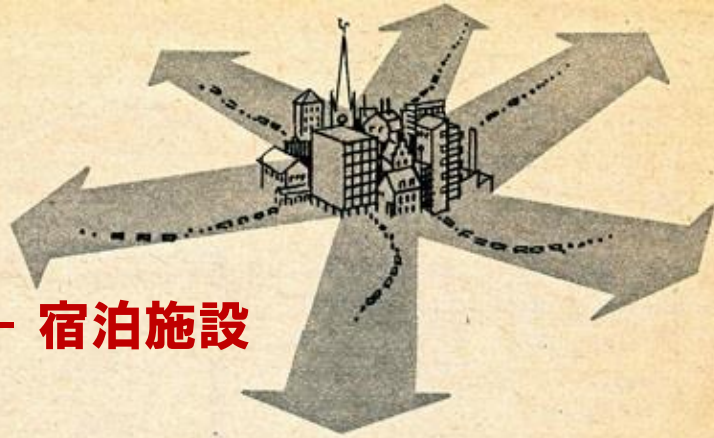
ヨーテボリ。60歳の技師が港湾スパイ容疑で逮捕された。逮捕手続きは木曜に行われ、金曜日に市裁判所で処理された。警察は詳細の公表を差し控えているが、秘密警察が長期にわたり追跡してきたことを明らかにした。複数の違法な情報活動が疑われ...

スパイ活動が増大 工業でも

ヨーテボリ、土曜日。ヨーテボリスパイ活動の調査における治安警察の成果はまだ裁判中である。

スパイ活動の内容は...

スウェーデン市民が発電所のスパイを発見



避難 - 宿泊施設

16



避難は、戦時に国民を守る、最も重要な措置のひとつである。避難は、1万人を超える住民が居住する都市部、および一部の小規模な地域、および空襲あるいは地上から侵攻される可能性が高い地域について計画されている。

避難はどのように行われるのか？

状況が可能なら、避難は緊急事態避難として開始される。または突然に戦争の脅威が起きた場合は、即時避難として実施される。

17



緊急事態準備は

段階的に実施され、16歳以下の子供と母親や親族などその面倒を見る人、老人や病人など介護を必要とする人々、その他働いていない人々など、無職の人々が対象となる。有償雇用されている人々で、主として人口3万人以上の都市住民など避難が必要な場合、後の段階である最終避難で、避難対象となる。

緊急事態避難では、当局は避難方法について詳細な指示を行う。

18 即時避難では

残留を命じられた人以外は、招集をかけられていない徴集兵も含め、全員が迅速に避難する。誰が残留するかは、予め当局あるいは雇用主から通知される。

即時避難命令はラジオや広報車やポスターで広報される。



即時避難では、当局からの詳細指示を待つことなく、行動できるように備えておかなければならない。即時避難が準備されている場所に住んでいる場合は、これは予算配分からわかるが、皆さんと家族の準備を明確にしておく必要がある。

避難に際して

絶対に必要だと考えるものだけを持って行く。

用心のため、暖かい服やレインコートや丈夫な靴を用意しておく。

荷物は家族が自分で運べる大きさにすること。

現金と重要書類と健康保険証と組合員証と配給カードと防護マスクと認識票



19

まず荷造りするもの



家を出る前に— 火災の危険を減らすため、カーテンを外し、ベネティアンブラインドを降ろす。ロールブラインドを上げる。バスタブに水を入れる。



自家用車で移動できるなら、指定避難道路を通過して宿泊施設エリアに行く。自家用車に余裕があるなら、親戚や隣人も乗せる。荷物を座席に置かない。

避難道路や目的地や避難拠点や支援場所の案内は、建物の貼られたポスターで広報される。皆さんと家族がどれに該当するか確認すること。



22



自分で移動手段を用意できないなら、指定された避難拠点に行く。そこからは民間防衛隊が宿泊施設エリアへの移動を組織する。



支援場所に行くことができない場合は、支援や担架が必要なことを連絡すること。

23



病気などの理由で避難拠点に行けない場合は、最寄りの支援場所に行く。



戦時配置される軍および民間防衛隊員が、招集命令と即時避難命令を同時に受けた場合、戦時配置命令に記載された場所に迅速に移動すること。皆さんが戦時配置される場合は、家族が皆さんのいない状況で避難できるように備えること。

どこに宿泊することになるのか？

通常、宿泊施設は皆さんの居住するレーン（地方自治体）にある。ただし、大都市やその他の地域を離れる場合は、遠くへ移動する必要がある。

宿泊は主に個人宅で行われる。介護が必要で、介護者がいない場合は、寮に宿泊できる。



宿泊施設は、受入コミュニティ（市町村）到着時に割り当てられる。受入世帯の居住空間を割り当て、キッチンを共用とする。

24



可能なら皆さんは皆さんにお金を支払う。資金を持っていない場合は、当局が支援する。宿泊施設での滞在は延長される場合がある。団体や当局は雇用問題の解決に努める。特に、労働事務所は増強される。

自分で宿泊施設を確保する場合、宿泊しようとしている施設が、宿泊に不適切な場所でないか、予め確認すること。しかし、特に指定された避難ルートに従って移動する準備をしておくこと。これらの問題については、レーン行政委員会から助言が得られる。

新しい住所を通知する

避難後、皆さんの近い人々が、皆さんに連絡を取るために、どこに手紙を書いてよいかわからないかもしれない。そのため、宿泊施設に到着したら、すぐに、近い人々の最新の住所に手紙を出して、新しい住所を知らせ解くこと。また、最寄りの郵便局にも住所を申告すること。

もし夫が招集された場合、軍郵便番号で連絡を取れる。それがわからない場合は、連隊の住所で連絡が取れる。ただし、軍郵便番号と連隊の住所の一方を書くこと。軍郵便番号（登録番号）と連隊（小隊、軍団）をメモしておくこと。

274-15-39 R. F. アルソン
軍郵便番号 76 922

391225-31 O. T. レルソン
J 15
ボロース

受入コミュニティでは、皆さんを登録する。特に、最新の教区所在地、自宅の住所、受入コミュニティでの新住所、同居者について登録のこと。

皆さんが提供した登録情報は郵便局で、皆さん宛に送られた郵便物の配送に使われる。この情報により、皆さんの親族が皆さんの居場所を知ることができる。

住所登録

姓		名	
生年	月	日	番号
婚姻		職業・資格	
教区		自宅住所	
受入地住所			
同居者(宿泊施設ホスト)			
姓		名	
16歳以下の子供(名前)		生年	月 日 番号

攻撃に対する防護

現代の戦闘手段は壊滅的な影響を与える可能性がある。それらから身を守る可能性はまだ大きい。しかし、皆さんにどんな可能性が適用可能か知っておく必要がある。皆さんの自宅と職場から最も近いシェルターの場所を調べる。近くにシェルターがない場合、どうやって自分自身を防護するか考えること。

標準防護シェルターは、1945年以降に建設された大都市の集合住宅すべてに設置されている。標準防護シェルターでは、一般に利用可能な最高の防護が得られる。建物の倒壊に対応し、毒ガスおよび放射性降下物に対して防護できる。爆心からある程度、離れていれば、原爆の影響からも防護できる、

堅牢シェルターは、さらに抵抗力がある。しかし、それらは最大規模の都市など限られた場所にしかない。

普通の地下室は、放射線に対しては優れた防護力を持っているが、倒壊や火災には対処できない。

標準シェルター

地下室

堅牢シェルター

シェルター

最も身近なシェルターがどこにあるか、どこまで防護できるのか、そして、どうやって自宅および職場からシェルターまで行くのか、常に明確にしておくこと。

緊急時の備えを強固にする場合、シェルターを用意する必要がある。シェルターのない家では、防護を改善する必要がある。

それから、誰もが助けを得られなければならない。そして、誰もが自分自身と家族のために準備をしなければならない。

数日間続けてシェルターや地下室に滞在する必要があると想定して、自分の準備をすること。

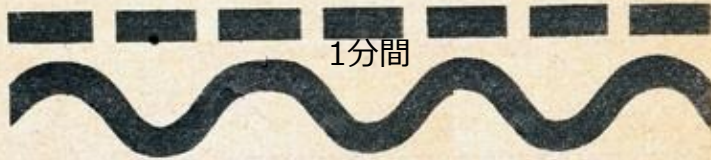
避難後に残留することになっていて、住んでいる家に標準シェルターがない場合、シェルターのある親戚や知人の家に移動できるよう手配すること。ただし、都市中心部は避けること。外縁地域では、はるかに容易に、自分自身を防護でき、何か起きた場合にも助けを得られる。より広域では、最良のシェルターが使えるように、当局は避難後に残留する人々の移転を準備している。



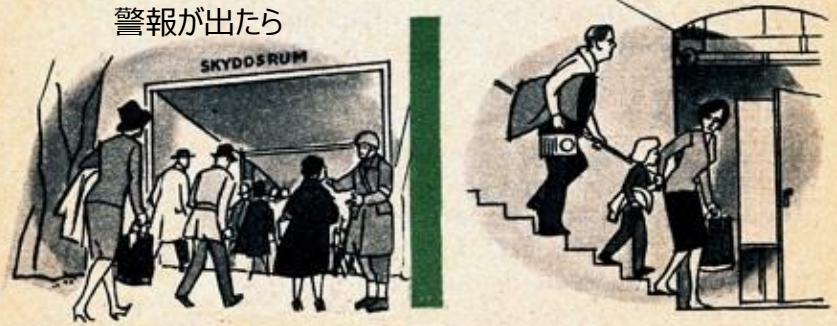
空襲警報

空襲警報は空襲や放射性降下物や毒ガスの危険が差し迫っていることを意味する。

空襲警報はタイフォンやサイレンで、短い警報音や、1分間の立ち上がりおよび立ち下がりサイレンで広報される。一部の地域では、警報は電話で伝達される。



警報が出たら



一番近いシェルターに入る。近くになれば、一番近い地下室に入るが、緊急時は1階に入る。



地下室か1階に避難した場合は、防護姿勢で伏せる。防護マスクをつける。

30秒間

警報が解除されるか、防護手段の提供を通知されるまで、避難した場所に留まること。警報解除は30秒の長い警報音で広報される。

忘れないこと：



助が必要な人がシェルターに来たら、助けること。



火災の消火につとめること。迅速に対処することで、延焼を防げる。



負傷者や身動きが取れない人を助けること。



警報解除の数時間後までは、電話は使わないこと。

攻撃時に必ずしも警報が発令されるわけではない。危険な場所にとどまっている人がいたら、シェルターに招き入れること。

奇襲攻撃の場合

屋内にいないか、空襲警報なく奇襲攻撃にあつたら：

- 1
できれば出入口や、窪みや壁の横で伏せる。屋内にいる場合は、何らかの障害物の背後に隠れる。
- 2
衣服などで、素肌、特に顔や手を防護する。
- 3
瓦礫などが飛ばなくなるまで、伏せたままにいる。
- 4
衣服に火が付いたら、火が消えるまで転がり回る。
- 5
防護マスクをつける。
- 6
状況が許す限り、より良い防護場所を探す。

放射線防護

原爆が爆発すると、眩い閃光と強い熱線と爆風と放射能が発生する。

放射性物質が含まれている砂粒と埃は、爆発プルームの周りに放射化された粒子の雲を形成する。塵は風とともに広がり、長い距離を移動して降下する。近隣諸国での爆発でも、スウェーデン地域で放射性物質の降下を引き起こす可能性がある。

なぜ放射線は危険か？

放射線は衣服や皮膚を貫通し、体の組織や臓器に損傷を与える。大量に被曝した場合、放射線障害を発症し、生命の危険に陥ることもある。

放射性の塵は火傷のような症状を皮膚に起こす。

吸入した放射性物質が体内に入ることによって放射線障害が引き起こされることがある。



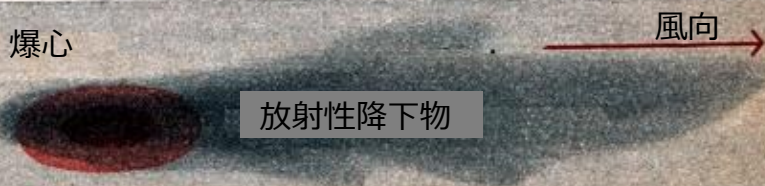
地形の障害物や窪みは原爆の効果をも弱め、防護の可能性を高める。

爆発後では、摂取や開放創傷からの、外部被曝による障害のリスクが最大となる。

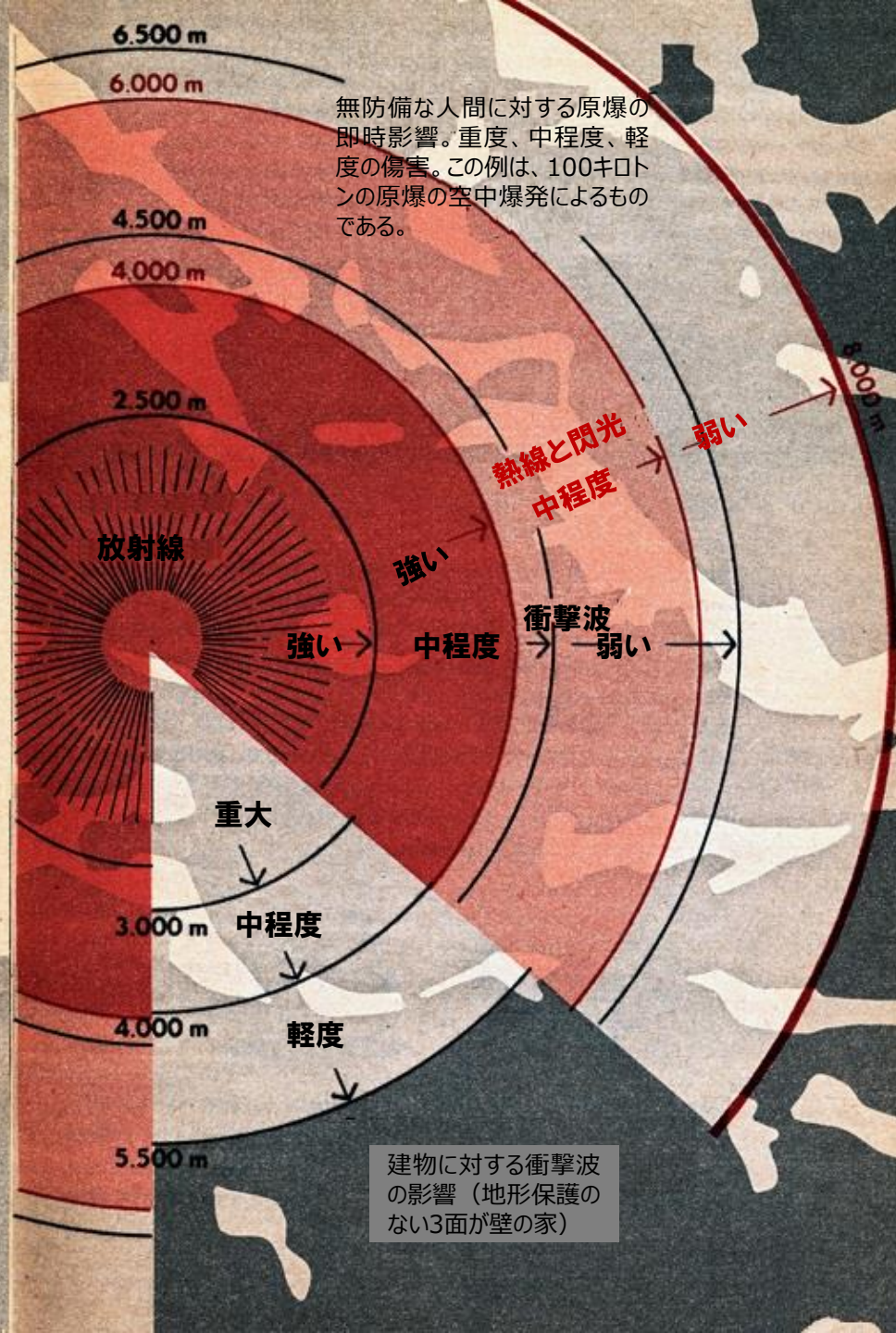
放射線被曝した場合、感染症予防をする必要がある。すべての傷や怪我を慎重に治療し、清潔に保つことで、合併症の危険性を減らせる。

放射性降下物から身を守るには？

放射性降下物が生成された場合、民間防衛は、ラジオや空襲警報、あるいは別の広報手段で、脅威の及ぶ地域の住民に対して、防護措置を取るよう広報する。その周辺地域に対しては、警告が放送される。



爆発の間に形成された放射性的なダストは風とともに長大に拡散する。



無防備な人間に対する原爆の即時影響。重度、中程度、軽度の傷害。この例は、100キロトンの原爆の空中爆発によるものである。

建物に対する衝撃波の影響（地形保護のない3面が壁の家）



7時間後

2日後

2週間後



無防備な状態で被曝するのに比べ、住宅の地下室では放射線強度は1/20になり、大きなレンガの住宅の地下室では1/100になり、標準防護シェルターでは1/000になる。通常の地下室も防護手段となる。

35

あらゆる状況で入室する場合：



シェルターや居室に入るときは、放射線ダストが付着していること考え、上着や靴を脱ぐこと。

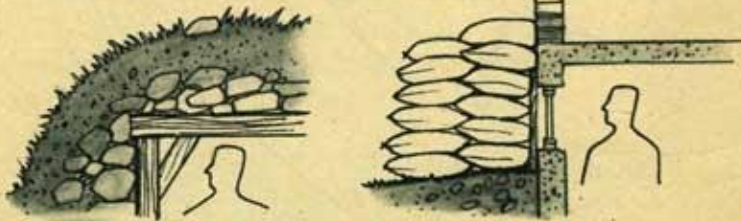


顔、首、髪、手など、体の露出部分を慎重に洗う。

34

放射性降下物からの放射線は爆発直後では非常に強いが、急速に減衰する。爆発から1時間後の放射線と比較して、7時間後にはわずか1/10になる。2日後には放射線量は1/100に減衰し、2週間後に1/1000に減衰する。このため、初期の防護が重要である。

皆さんと放射性降下物の間に、土やコンクリートやその他の物質が多くあれば、それだけ防護を高められる。



シェルターがない場所では、地下室が最善の防護手段となる。扉や窓やシャッターなどの開口部を土嚢などで覆うと、防護が高まる。ダストが中に入り込まないようにする必要がある。

危険が去ったときに準備ができていてもシェルターに留まること。

2日以内に通知が届かない場合、誰かが一時的にシェルターを出て、情報を得ること。



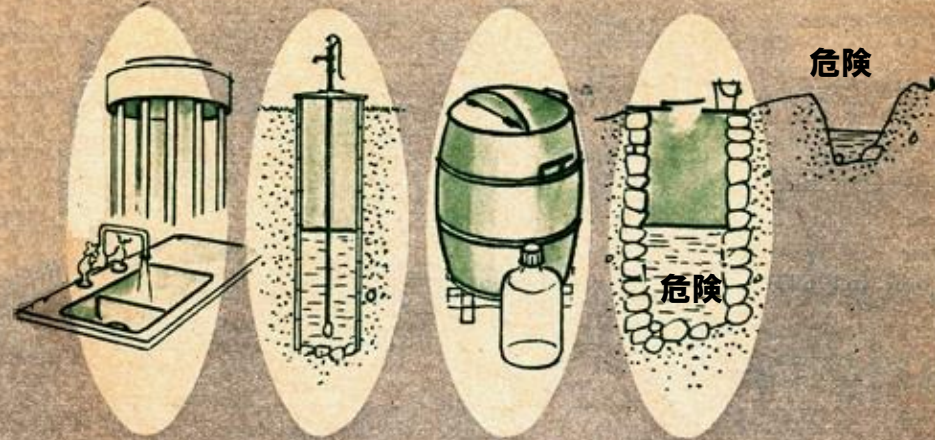
より安全な地域への移動が必要になる場合がある。いつ、どの経路で移動するか自分では決められない。ラジオあるいは民間防衛隊から直接の指示に従うこと。

食料と飲料

放射性降下物汚染された地域では、状況が詳細に調査されるまでは、被曝後すぐは、ほとんどすべての活動が停止する。したがって、全世帯は、数日分の食料と飲料水と暖房を用意する必要がある。



カバーの下や密閉空間に保存されているなど、放射性ダストと直接接触していない飲食物は、安全に消費できる。



水道管内の水や密閉容器内の水、あるいは水源が地下水のみである密閉された井戸の水は利用可能である。



放射性ダストは通常、袋やパッケージの外側、フライパンの上や、皿の上などのダストとして見える。これらは除去できる。カバーを取り外すか洗浄すればよい。



安全上の理由から、防護されていない食品は使用前に慎重に外側をこすりとりか、削り取るか、またはすすぐこと。

生物兵器に対する防護

戦時に、そしておそらく戦争勃発前に、侵略者は意図的に人間や動物や植物に害を与えるために戦争の一部として感染性病原体を使用する可能性がある。攻撃にはさまざまな方法がある。

感染症はあらゆる手段で確実に阻止しなければならない。誰もが、感染拡大防止に参加しなければならない。最も重要なことは徹底的な各人の衛生である。



- 1 特に食事の前やトイレに行った後は、石鹼と水で手をよく洗うこと。



- 3 手を洗わずに食べ物に触れたり、調理したりしないこと。



- 5 汚染の恐れがある場合は、洗濯用や洗浄用を含む絵、家庭で使う水はすべて10分間煮沸すること。



- 2 感染症に備えて、できれば消毒剤で、手を洗うこと。



- 4 感染が疑われる場合は、食品を煮ること。揚げたり、焙ったり、焼いたりしても、必ずしも感染源を破壊できるわけではない。



- 6 飼育している動物も、汚染した水を飲まないように注意すること。

毒ガスに対する防護

神経ガスはすべての毒ガスの中で最も危険である。それらは無臭であり、そして症状が出るまで気づけない。マスタードガスのような他の毒ガスは、臭いで検出できたり、地面や水面で油が浮いているのが見えたりする。

吐気や呼吸器系の症状や発作など、神経ガスによる症状は、直後あるいは数分以内に起きる。マスタードガスのような他の毒ガスの場合、皮膚の水疱や、眼の障害や肺の障害などの症状が5～10時間後に起きる。

危険
毒ガス

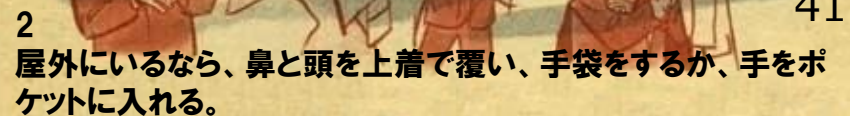


毒ガス攻撃を受けた場合、危険地域の住民は、ラジオや航空機による警報で、防護措置を取るよう指示される。また、その周辺地域の住民には警告が発令される。

毒ガスを吸ったり、毒ガスが皮膚や眼に触れたりしないように防護することが重要である。大半のシェルターは毒ガスからも防護できる。また、扉や窓や換気口を閉じて目張りすれば、居室または地下室でも防護できるが、短時間だけである。

防護マスクは、毒ガスの吸入を防ぐ。また顔も防護する。衣服、特にレインコートや手袋は肌を防護できるが、ごく短時間だけである。主に人口密集地域の住民には、防護マスクが配布される。

毒ガスが疑われる場合は、以下の助言に従うこと。



毒ガスの液滴が付着した場合、できるだけ迅速に避難すれば、被害を防げる。ただし、シェルターや居室に入る前に：



1 毒ガスの付着した上着を脱ぐ。



3 石鹸と水で洗う。



2 皮膚に付着した毒ガスの液滴を拭き取る。



4 毒ガスが付着したと思われる食料や飲料を摂取しない。

5 毒ガスが付着した物との接触を避ける。

ただちに避難すること。一秒一秒が貴重である。

戦災補償

政府の決定により、戦争の物的被害を公的資金で補償される場合がある。重要所有物を記録し、その記録と保険証書を大切に保管することは有益である。詳細かつ確実な記録があれば、請求の決着が容易になる。



警備隊



民間防衛の全体

救助隊



消防隊



本部



復旧隊



防衛隊

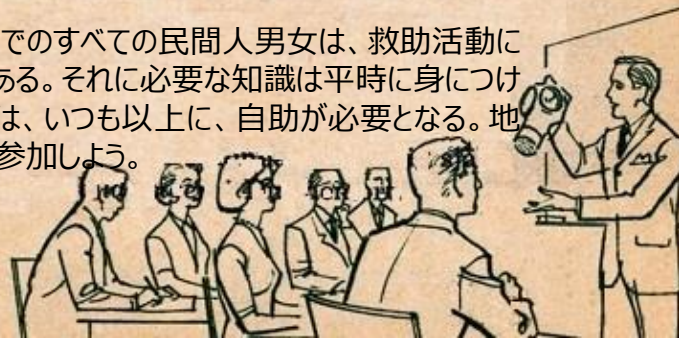


医療隊

自助

皆さんの街が攻撃を受けた場合、救助活動が行われる。損害が復旧され、毒ガスと放射能の測定が行われ、消火が行われ、秩序が維持される。しかし、社会資源が非常に不足するので、救助活動を成功させるためには、手を出せる人は全員が、救助活動に参加しなければならない。もちろん、皆さんも。

16歳から65歳までのすべての民間人男女は、救助活動に参加する義務がある。それに必要な知識は平時に身につけておこう。戦時では、いつも以上に、自助が必要となる。地元の自助訓練に参加しよう。





戦時の医療

戦時、多くの病院は都市部に接地されている。救急病院は、攻撃に脆弱でない場所に設置される。大量の負傷者を看護できるように、容易に看護できるように看護施設が配置される。戦時医療に備えて、医薬品は平時に調達備蓄されている。民間防衛および軍は、負傷者の救命のために、拠点からまず出発する。

負傷者治療のために血液を確保するために、献血センターが開設される。平時に既に献血をしていれば、簡単に献血できる。最寄りの病院あるいは赤十字に行くこと。



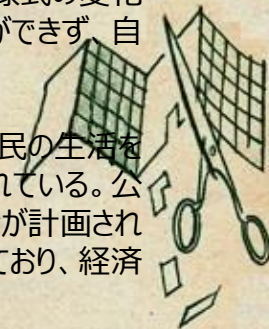
医療看護を学ぼう。戦時に皆さん自身や近親者や隣人などが、負傷したり、病気になったりした場合、皆さん自身で対処する備えをしておかなければならない。平時に医療看護の知識を学んでおこう。任意の医療看護コースに参加しよう。



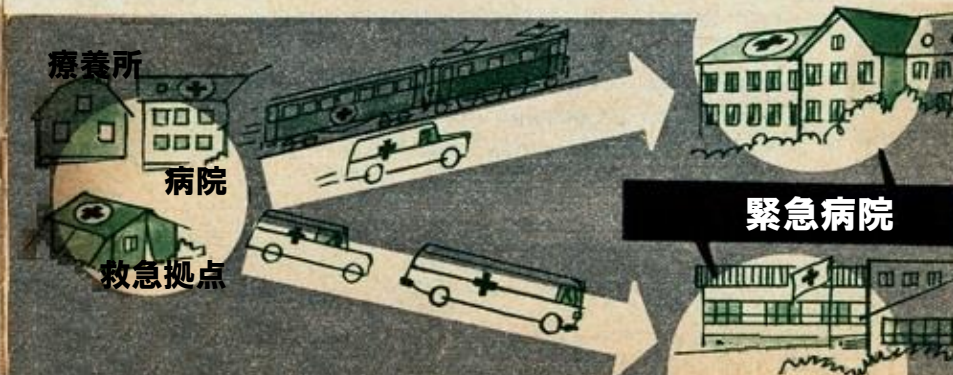
戦時の供給


不足、食料配給、避難、職務義務などは、生活様式の変化を意味する。これらは、戦時においては逃れることができず、自ら対処しなければならない。

経済防衛の準備を通して、我々は戦時下での国民の生活を維持しようとしている。重要資源や物資が備蓄されている。公平な資源の分配と持続性向上のため、食料配給が計画されている。戦争で不可欠な物資の生産が準備されており、経済界とその組織が計画に加わっている。



労働市場における契約上の自由は、戦争中も維持されなければならない。しかし、政府は、労働者が退職したり、廃業したりするのを禁じる決定を行う場合がある。職務義務を全労働者に適用する場合がある。





故郷の町で 戦闘が起きたら

46

わが国のいかなる部分も、無抵抗で明け渡されることはない。しかし、徹底した防衛にもかかわらず、敵がスウェーデンの領土を占領する可能性がある。占領下では、ラジオなどの手段で伝達されるスウェーデンの合法政府の指示に従うこと。

国際法の規定

第二次世界大戦後、戦争中に負傷し、病気になった民間人、捕虜の保護に関する国際協定が結ばれた。1949年のジュネーブ条約に署名した、米国やソ連などの大国を含む、すべての国家は、これを遵守することを誓約している。

占領には苦痛が伴うが、我々はあらゆる点で民間人の権利を主張する。


国際法は非戦闘員について次のように規定している。

肉体的または道徳的強制をいかなる形でも行使してはならない。

他人が犯した罪で誰も罰してはならない。

テロ、略奪、報復は禁じられている。

他国への移動や強制送還を行ってはならない。



ゲリラ戦

責任者の管理下で、制服あるいは腕章あるいは何らかの徽章を付け、公然武器を携行することを条件に、国際法はゲリラ戦を許可している。敵の占領下に残留している軍部隊や武装勢力はゲリラ戦に移行する。

ゲリラ戦では、我々の地元についての知識と土地勘が有利に働く。敵は安心できず、将兵や車列や施設や備蓄に対する警戒を怠れない。敵は兵力の分散を余儀なくされる。これにより、我々の主戦力による可能性を高める。ゲリラ戦により、我々の最終的解放は加速する。

レジスタンス運動



第二次世界大戦中に、占領下の国々ではレジスタンス運動が起きた。レジスタンスの強さと重要性を増し、占領がより困難になった。レジスタンス運動への積極的な参加は勇気と度胸を必要とする。国際法は、積極的にレジスタンス運動をする人々を保護しない。そのため、命懸けの闘争になる。しかし、前線の兵士たちや、ゲリラ戦を戦う人々も同じことをしていることを忘れないこと。

人道支援以外のいかなる支援も敵に与えてはならない。敵と個人的な接触は控えること。スウェーデンのトータルディフェンスについての情報を敵に与えてはならない。スウェーデンに対するプロパガンダに加わってはならない。プロパガンダに抵抗しなければならない。敵に従うことは反逆行為である。

忘れないこと：

我々は皆、戦争よりもはるかに大きな要求を自らに課すべきである。皆さんは、思った以上のことができる。危機の瞬間に、力が大きく育つ。

希望を捨てない。自分を信じる。自国を助ける。政府を支持する。断固として、もう一度言おう。

我々は決して、あきらめない！

目次

国家総力戦 トータルディフェンス	2
国家戦争指導部	4
警報信号	5
皆さんの持ち場	8
緊急警報	10
抵抗精神	12
警戒	14
避難 宿泊施設	16
荷造り	20
どこに宿泊することになるのか？	24
新しい住所を通知する	25
攻撃に対する防護	26
空襲警報	28
奇襲攻撃の場合	30
放射線防護	31
放射線降下物から身を守るには？	32
食料と飲料	36
生物兵器に対する防護	38
毒ガスに対する防護	40
戦災補償	42
自助	43
戦時の医療	44
戦時の供給	45
故郷の町で戦闘が起きたら	46
国際法の規定	46
ゲリラ戦	47
レジスタンス運動	48

